

二〇一七年 十月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

見えないところがほんものにならないと、
見えるところもほんものにならない

東井義雄

日常のなかで、人が見ている時は頑張つて取り組むが、人が見ていなければ気を抜いてしまうことがあるのではないでしょうか。誰かが居ても、居なくても、いかなる場面においても精一杯取り組んでいる姿は本当に美しいものだと思います。

勉強・クラブ活動など学校生活で問われる場面は多々あるはずですが、きつとクラスや学年、クラブ活動等でキラリと光っている人は、人が見ていないところで人一倍努力を重ねているはずですが、見えないところが「本物」になるように、この言葉を日常の教訓として精進していきたいですね。

今月の聖語

心さえあれば、目の見るところ、耳の聞るところ、みなことごとく教えである。

『華嚴経』

これは『華嚴経』という經典に出てくる言葉です。この經典に出てくる善財童子へせんざいどうじょうという青年は仏法を求めななかで五十三人の人たちと出会います。その五十三人の人たちの性別や職業は様々です。例えば、医師からは人に対する慈悲の心を学びました。このように多くの人との出会いの中で、善財童子は仏法を学び「心さえあれば、目の見るところ、耳の聞るところ、みなことごとく教えである」という事を知ったのです。

さて、この言葉はみなさんの日常生活にも置き換えることが出来ると思います。私たちは、周りの人の姿や言葉をしっかりと自分自身に活かせているでしょうか。意外と自分の枠の中で過ごしていることが多いと思います。求める心さえあれば、日常のいたるところに自分自身を成長させてくれるヒントがあるかも知れません。注意深くアンテナを張ることの大切さを改めて教えてくれる言葉だと思えます。